

普及活動情勢報告

情勢報告（平成27年1月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

J A 四万十生姜部会栽培反省会



12月22日、露地ショウガの生産安定のために今年の栽培課題の反省検討会を行い21名が参加しました。

園芸連からショウガの販売概要等、J Aから平成26年産受け込み量・土壌消毒実績等、農業技術センターから施肥試験と併せた陥没型腐敗症防止に係る調査研究の途中経過等、普及所から現地実証結果を報告しました。

特に陥没型腐敗症に関する研究について質問が多く、次年度も研究との連携PT会により重点的な発生防止対策に取り組めます。

初心者向け露地野菜栽培説明会



露地野菜の生産振興を図るためにJ A高知はた営農改善協議会の主催で、栽培説明会を大正地区で1月19日に、十和地区で20日に開催しました。

北幡地域の推奨品目のシシトウ、オクラ、インゲンについて栽培方法と経営収支をJ Aと普及所が説明し、参加者は補完品目としてのインゲンに高い関心を示しました。

夏には、冬野菜のナバナ等の作付けを呼びかけ新規栽培者の掘り起こしを行います。

集落営農の法人組織育成のための講習会



1月19日、社会保険労務士の森氏を講師に労務管理の基礎知識等について講習会を開催しました。

参加者した農事組合法人の組合員からは、「雇用者のスケジュール管理や社会保障制度等について理解を深めることができて良かった」という声が聞かれました。

今後も、法人として集落営農を継続していくために必要な知識の習得等を支援していきます。

鹿児島県における新規担い手確保育成事例調査



1月13・14日、鹿児島県志布志市農業公社の担い手対策の取り組みについて、関係機関8名で事例調査を行いました。

公社では研修前に厳しい審査を行うとともに研修中や就農後には関係機関による連携・役割分担で手厚い指導が行われていました。研修生は高学歴中心のIターン者が多く、データに基づく指導（見える化、数値化、マニュアル化）が求められていました。

四万十町でもUターンを含めた担い手の育成に向け、地域に合った体制づくり、条件整備を関係機関が連携して進めていきます。

広島北部農業協同組合千代田カントリーエレベーター視察研修



1月13・14日、JA四万十カントリーエレベーター（以下CE）の作業効率化や品質向上に向け、広島北部農業組合千代田CEの屋外型循環乾燥機及び光選別機を生産者及び関係機関等17名で視察研修しました。

研修ではCEの導入経緯や集荷率等について情報収集を行うとともに運営方法等についても千代田CE管理者と意見交換しました。

普及所は、引き続きJA四万十CEを利用した更なるブランド化への取り組みを支援していきます。